

いわき農林水産ニュース

令和元年10月号(第176号) 発行 10月25日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



秋の味覚「鮭」!
今年もはるばる北の海から帰って
きました。

目次

- ・【速報】台風19号によるいわき管内の被害について……………p.1
- 〔各種取組の実績(9~10月分)〕……………p.3~
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……………p.7
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.7
- ・注意喚起情報……………p.8
- ・イベント情報……………p.9
- ・田んぼの学校④収穫・実食体験……………p.10
- ・GAPコーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

【速報】

台風19号によるいわき管内の被害について

はじめに、このたびの台風19号により、亡くなられた方々に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

県では、被災された方々が一日も早く元の生活を取り戻されるよう、被災箇所の復旧と被災者の生活再建に全力で取り組んでまいります。

全国各地に被害をもたらした台風19号は、いわき管内でも暴風雨や河川の氾濫・決壊等により農林水産業に甚大な被害をもたらしました。

今月号では、現時点における、いわき管内の被害状況及び相談窓口についてお知らせします。

なお、被害状況については現在も調査中であり、被害箇所及び被害額は更に増える見通しです。

1 いわき管内の被害状況(10月25日現在)

(1) 農業等の被害

農作物への被害は、水稻への冠水のほか、ネギ、トマト、日本なしなど様々な品目に及び被害面積は約191ha、被害額は約2億6百万円となっております。

また、ビニールハウスなど農業等施設についても、平窪地区、小川地区など3箇所で被害があり、被害額は約63万円となっております。

なお、旬を迎えた日本なしの選果場も使用できなくなりましたが、現在、他の選果場に振り分けるなどして対応しております。



ねぎ・水稻浸水(夏井地内)



(2) 農地等の被害

農地への被害は、小川地区、田人地区、三和地区など市内の田畑18箇所及び、被害額は約2千2百万円となっております。

また、排水機場、頭首工、水路など農業用施設への被害も深刻であり、河川の氾濫に伴う水路の埋塞や機械設備の破損、堰の流出など、併せて69箇所、被害額は約14億8千万円にのぼる見通しです。

このほか、農村集落の下水処理施設である農業集落排水施設への被害も発生し、こちらの被害額は約3億2千万円となっております。

なお、当所においては、市内183箇所の農業用ため池について、いわき市と連携し緊急点検を行いました。



県営農道事業工事箇所の被害（遠野町内）



農道法面の崩落（遠野町内）

(3) 林業等の被害

治山関係では、田人地区、三和地区の6箇所において、山腹崩壊、土砂流出が発生し、国道289号を塞ぐなど地域の交通にも影響を及ぼし、被害額は約1億4千万円となっております。

また、林道の被害も大きく、62路線119箇所において路体崩壊、法面崩壊などが起こり、被害額は約2億8千万円となっております。

さらに、木材加工流通施設への浸水や、宿泊施設の体育館への土砂流入など林産施設への被害も発生し、被害額は約9千万円に及び見通しです。



林地被害 「おふくろの宿（体育館）」（田人町旅人地内）



林道被害（路面洗掘）「宇津木沢」線（田人町黒田地内）



(4) 水産業の被害

水産関係では、いわき市漁協小浜支所で港内に係留した小型漁船1隻が転覆した他、水産加工業者のトラック1台が水没する被害がありました。

また、内水面関係では、サケ増殖施設について、夏井川のサケ築場が増水により水没していますが、濁りのため被害が確認できていません。



夏井川サケ築場

2 いわき農林事務所・水産事務所 台風19号による農林水産業被害に係る相談窓口について

農林水産業被害に係る相談窓口は次のとおりです。お知らせします。

なお、時間は、8：30～17：15（土日・祝日を除く）となります。

相談の内容	担 当	電話番号
農業制度金融に関する事	いわき農林事務所農業振興普及部 農業振興課	0246-24-6160
農作物等の技術対策・米の全量全袋検査に関する事	いわき農林事務所農業振興普及部 地域農業推進課 経営支援課	0246-24-6161 0246-24-6162
	○農作物等の技術対策については、下記資料もご参照ください。 「農業技術情報第13号 台風19号による水害に関する農作物等の技術対策」 （令和元年10月16日 県農林水産部農業振興課） https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/354674.pdf 「農業技術情報第15号 台風19号の水害に関する農作物等の技術対策（第2報）」 （令和元年10月25日 県農林水産部農業振興課） https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/355068.pdf 「いわき農業技術情報 台風19号による水害に関する農作物等の技術対策」 （令和元年10月18日 いわき農林事務所） https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/354676.pdf	
林業・木材産業の融資に関する事	いわき農林事務所森林林業部 林業課	0246-24-6192
保安林内での土砂災害に関する事（被害箇所の情報提供を含む）	いわき農林事務所森林林業部 森林土木課	0246-24-6195
農地・農業用施設に関する事（被害箇所の情報提供を含む）	いわき市農林水産部 農地課	0246-22-1149
水産業に関する事	水産事務所 漁業振興課	0246-24-6176

いわき農林事務所・水産事務所では引き続き、本県の復旧・復興に向けて関係機関と連携しながら、農林水産業者・団体への支援に取り組んでまいります。（いわき農林事務所・水産事務所）



第2回ふくしま植樹祭

〔10月6日(日)〕

大玉村の福島県民の森において、第2回ふくしま植樹祭が開催されました。

ふくしま植樹祭は、ふるさと再生への思いを込めた植樹活動により、「未来へつなぐ希望の森づくり」を加速させるとともに、復興に向けて歩み続ける福島を広く発信することを目的としています。

植樹だけでなく、昨年6月10日に開催された第69回全国植樹祭のサテライト会場近くに植樹された木の育樹活動も行われました。

県内外から約2,000人が参加し、薪割り、森林ヨガ、アロマ作りなどの体験活動や福島県産品のコーナーも賑わっていました。

あいにくの雨でしたが、植樹を行うには絶好の天気。みなさん楽しそうに植樹・育樹を行っていました。



(植樹祭の様子)

会計事務研修会を開催

〔10月8日(火)〕

適正な会計事務の執行を図るため、当所内の管理職や経理担当者を対象とした会計事務研修会を開催しました。研修会では、契約・物品・不適切な会計処理・旅費の4テーマを基本に、総務部職員が講師を担当し、実施しました。

研修会では、契約の根拠となる法律について講義を行ったほか、実際の契約事務手続きにおける注意点等についても触れ、適正な事務の執行が図られるよう注意喚起を行いました。また、県の他の事務所で不適切な会計処理の事案が発生していることから、単純なミス解消などへ向けてチェック体制の強化等を呼びかけました。

総務部では今後も、より良い事業執行を目指して所内研修の機会を増やし、職員の資質向上に努めてまいります。



(研修会の様子)

豚コレラ初動対応を確認

〔10月8日(火)〕

県いわき合同庁舎において、福島県牛豚等特定家畜伝染病対策いわき地方連絡会議を開催しました。豚コレラは、家畜伝染病予防法において法定伝染病に位置づけられており、発生した場合には国の防疫指針に基づき速やかに防疫措置を講じる必要があります。

国内では昨年9月、26年ぶりに岐阜県で確認され、現在では埼玉県や群馬県といった関東地方でも猛威を振るっており、いわき管内においても発生リスクが高まっております。

今回の会議では、関係機関・団体から25名が出席し、豚コレラ発生時に適切に対応できるよう、情報の共有や初動対応について確認しました。

豚コレラ発生に備え、引き続き万全な体制整備に努めてまいります。



(会議の様子)



ふくしま常磐ものフェアが開幕！

〔10月1日(火)〕

「常磐もの」で知られる本県水産物の魅力を多くの消費者に伝え、販路回復を目指す「ふくしま常磐ものフェア」が10月1日から始まりました。都内を中心に25店舗で産地直送の「常磐もの」を用いたオリジナルメニューを提供し、首都圏の消費者に県産水産物をPRする取組で、10月1日～15日、11月1日～15日の計30日間開催します。

1日はフェアの参加店である三軒茶屋にある海鮮居酒屋「三茶まれ」でオープニングセレモニーが行われ、参加者や海外の方を含むインフルエンサーに加え、いわき市にある酒造店「合名会社四家酒造店」の蔵元さんの登場、地元産



「常磐もの」を彩り鮮やかに盛り付け



(海外の方々にも常磐ものをPR)

日本酒の提供もあり、セレモニーに花を添えました。「常磐ものの美味しさと安全性を知っていただき、福島の水産物のファンになってください」との県の挨拶に続き、県漁連会長のフェアの大盛況を祈念した乾杯が行われ、「県産戻りカツオと鮮魚盛り合わせ」「県産ホウボウのエスカベッシュ」「県産ホッキガイとベーコンのサラダ」等の豪華な料理が県産日本酒とともにテーブルを彩りました。参加者の反応も上々で、今後のフェアの盛り上がりを予感させるものでした。

(水産事務所)

第1回いわき農業普及推進懇談会を開催

〔9月30日(月)〕

JA福島さくら夏井支店(p.11 地図参照)において、令和元年度第1回いわき農業普及推進懇談会を開催しました。

農業振興普及部では、農業者や他業種の普及協力委員、各関係機関、各農業団体の意見や要望をいただき、農業農村の実態に即応した効率的な普及指導活動を展開しています。

上半期の普及指導活動の実績報告を各課題担当から行い、情報提供として豚コレラの発生状況と対応、県農業振興課に新たに配置された経営革新推進員の役割などをお知らせしました。



(農業普及推進懇談会の風景)



(大規模露地野菜ほ場：ハクサイ)

出席された方からは、農業者の消費税増税の対応、大麦の販売価格、ベトナムに輸出している日本なしの価格帯など、農家経営の発展に役立つ情報を提供するよう積極的な意見が出されました。

また、現地研修として、米の全量全袋検査場(JAカントリーエレベーター)や大久町の大規模露地野菜ほ場(マルヤス産業)を見学し、マルヤス産業の安田代表からは、大規模露地野菜に取り組んだ経緯やいわき市に参入してきた理由等を説明いただきました。

(農業振興普及部)

市内幼稚園で食育活動を実施

〔10月18日(金)〕

「ふくしま食育実践サポーター」の中村寛子さんによる、「育脳おやつづくり」が、藤原公民館(p.11 地図参照)において藤原幼稚園児保護者10名を対象に実施されました。

料理教室では、中村さんが“育脳おやつ”と称する「ごはん de おやき」、「とろ〜り豆乳ミルクもち」を作りました。また、子どもにとっての日々の食事や睡眠の大切さ、栄養バランスをとる上で重要な食材のキーワード「まごわやさしいこ」(豆、ゴマ、ワカメなど)、環境に配慮して調理を行う「エコクッキング」などについての説明もあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



(参加者へ説明する中村さん)

(企画部)

農道工事の現地研修会(ICT建機の活用)を開催!

〔9月27日(金)〕

いわき市遠野町で道路改良工事中の農道事業釜ノ前4期地区において、今後活用が増えると思われている「ICT 建機の活用」と題した現地研修会を開催しました。

ICTとは「Information and Communication Technology」の略で、日本語では情報通信技術と訳すことができます。ICT 建機に設計図データ(X・Y・Z座標等)を入力することで、現場経験の大小に関わらず、設計図どおりの施工が可能となることから、国ではICT 導入が進んでいます。今回、(株)鈴民建設受注の道路改良工事(釜ノ前4期地区)でICT 建機の活用を提案されたことから、関係者による現地研修会を開催しました。



ICT 建機のバックホウによる掘削作業風景

実際のICT 建機(今回はバックホウ)で、設計値以上に過剰に法面を掘削しようと試みましたが、防止機能が働き建機の正確性を確認することができました。また刃先のセンサーにより掘削土量を管理できることから、進捗率及び残工事量をより正確に把握できることも判りました。研修参加者全員が、ICT 建機の有効性を感じることができました。

(農村整備部)

JA福島さくら和牛育成管理共進会でグランドチャンピオン受賞〔9月28日(土)〕

第4回JA福島さくら和牛育成管理共進会が田村市常葉町のJA福島さくら畜産センターで開催されました。

各地区から選抜された牛44頭が5区に分かれて(社)全国和牛登録協会の審査基準に基づき審査されました。出品されたどの牛も優れており、審査に時間がかかる場面も多くある中、最優秀賞には第3区に出品したいわき市の鈴木紗季さんのさやか号が選ばれました。さやか号は雌らしさ、品位が優れている点が評価されました。さらに、発育良好で無駄な脂肪がなく、育成管理技術の高さがうかがえました。これらは今までの改良による牛の持つ能力の高さとそれを発揮させる日々の管理の賜であり、さやか号の受賞は、いわきの和牛生産者の大きな励みになります。



(審査を受ける鈴木紗季さんとさやか号)

(農業振興普及部)



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目（令和元年9月分）

□ 農林畜産物の出荷制限等品目

令和元年9月末日現在、いわき地方の農林畜産物のうち、出荷が制限等されている品目は（表1）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。（企画部）

（表1）農林畜産物の出荷制限等品目（令和元年9月末日現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者 12 名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の出荷制限等品目

令和元年10月18日現在、出荷制限等指示魚種は（表2）の2種類になっています。（水産事務所）

（表2）海産魚介類の出荷制限等品目（令和元年10月18日現在）

制限、自粛	品 目
出荷制限	ビノスガイ、コモンカスベ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和元年9月分）

□ 農林畜産物の検査結果

令和元年9月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した12品目30検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。内訳は（表）のとおりです。（企画部）

（表）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）8、菌床なめこ（施設）1、ブドウ 1、原木しいたけ（施設）1、クリ 3、イチジク 1、ユズ 1、カボス 1、スダチ 1、エリンギ（施設）1、牛肉 6、原乳 5

□ 海産魚介類の検査結果

令和元年9月の水産物モニタリング検査では、501 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。（水産事務所）



野生きのこの出荷・摂取制限について

野生きのこの発生・採取時期を迎えますが、皆様におかれましては、次の点に留意して下さるようお願いいたします。

1 出荷制限品目について

現在、いわき市産のきのこのうち、出荷等が制限されている品目は(表)のとおりです。

これらの品目は、地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限は今シーズンも継続しています。

このため、出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。また、自主検査により「基準値(100Bq/kg)以下」であっても出荷や販売等は行わないでください。

2 摂取制限品目について

いわき市産の野生きのこのについては、摂取制限措置も取られていることから、食用とすることも控えて下さるようお願いいたします。

3 栽培きのこのについて

「原木なめこ(露地)」以外の栽培きのこは、栽培前に生産資材(きのこ原木・ほだ木、菌床等)の安全性の確認を県の検査機関において実施します。国が定める当面の指標値(きのこ原木・ほだ木50Bq/kg、培地、菌床200Bq/kg)以下で安全性が確認できた生産資材のみ、販売目的のきのこ栽培に使用することができます。

また、発生したきのこは、出荷・販売前に県によるモニタリング検査を受ける必要がありますので、きのこ栽培の開始・再開を検討されている場合は、森林林業部までお問い合わせください。(森林林業部)

(表) いわき市産きのこの出荷制限等品目

出荷、摂取	品 目
出荷制限	野生きのこ、原木なめこ(露地)
摂取制限	野生きのこ

※市町村毎に出荷制限品目等が定められていますので、県のHP「ふくしま新発売。」(<http://www.new-fukushima.jp>)または森林林業部で確認してください。

森林づくりタウンミーティングを開催します！

福島県では平成18年度から森林環境税を導入し、森林整備や森林環境学習の推進等「県民一人ひとりが参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

この度、県民の皆さんにいわき市におけるこれまでの取り組みや成果をお知らせし、ご意見などをお聞きする「森林づくりタウンミーティング」を開催しますので、ぜひご参加下さい。



1 日 時：令和元年11月13日(水) 19時から20時30分

2 場 所：県いわき合同庁舎 4階大会議室

3 参加申込み

○ホームページより

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/shinrinkankyousei/townmeeting.html>

○お電話またはFAX

いわき農林事務所 森林林業部 林業課 まで

電話 0246-24-6194 FAX 0246-24-6179

※お名前とお住まいの市町村をお伝え下さい。

イベント情報

第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンは、台風19号の影響により延期しておりましたが、下記のとおり開催いたします。

皆様、ぜひ足をお運びください！

- 日 時：令和元年11月23日（土）10：00～14：00（試食・配布物がなくなり次第終了）
- 場 所：ヨークベニマル内郷店（p.11 地図参照）
- 主 催：福島県いわき農林事務所

トピック1

「いわきハタチ酒プロジェクト・第2期」収穫体験！ ～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～



（生育状況調査の様子）

次世代のお酒の飲み手である19～20歳の皆さんに、日本酒に親んでもらうことを目的として、米作りから酒造りを体験してもらい、完成したお酒で20歳の年を祝おうという「いわきハタチ酒プロジェクト」。今年5月に参加メンバーが手植えをした酒米「夢の香」は、順調に生育を続け、9月22日（日）にはメンバーによる収穫体験を行いました。

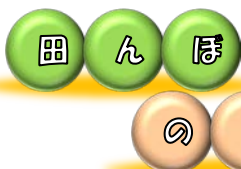
昨年の第1期活動での体験内容は10aの田んぼ全部を手刈りするというものでしたが、今年は趣向を変え、この時期に当所が収量を予測するために行っている生育状況調査を体験してもらいました。当所農業振興普及部の稲作担当職員の説明を受けたメンバーは、「穂数（1株あたりの穂の本数）」や「稈長（田面から穂首までの長さ）」などを計測しました。「夢の香」はいわき管内では栽培事例が極めて少なく、データも乏しいのですが、この日の測定では、中通りの栽培データと遜色の無い結果が出ました。

プロジェクトでは来年1～2月に酒造り及びその体験を行い、3月頃の新酒お披露目・発売を目指しています。ちなみに第1期の醸造分は、プロジェクト加盟の酒販店で好評発売中です。夏を越えて熟成が進み、味わいも深くなっていますので、是非ご賞味ください。

（農業振興普及部・農村整備部）



（集合写真）



第4回

マコモダケの収穫・実食体験を実施!

9月26日(木)

いわき市山田町の菊田小学校5年生児童82名が、マコモダケの収穫・実食を体験しました!

児童たちは、地元応援団から食べ頃を迎えたマコモダケの見分け方や収穫の方法などの説明を受け、7~8人1組で収穫作業に挑戦しました。初めは食べ頃のマコモダケを見分けるのに苦労していた児童たちでしたが、慣れてくると「ここにもあった!」と喜びながら、鎌で刈



(収穫の様子)



(実食の様子)

り取りしていました。

収穫を終えた児童たちは山田公民館(p.11 地図参照)へ移動し、山田地区おうえん隊(山田地域の婦人会の皆様方)に作っていただいたマコモダケ料理3種(マコモダケのお好み焼き、マコモダケの素揚げ、マコモダケのゼリー)を実食しました。児童たちは、様々な食べ方があることに驚きながら、「おいしい!おいしい!」と言って完食していました。

(農村整備部)

トピック2

第59回治山研究発表会で優秀賞を受賞

〔10月1日(火)~2日(水)〕

国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第59回治山研究発表会(主催:治山研究会)が開催されました。

治山技術者による研究成果等を発表することで治山事業の発展に資することを目的として毎年開催されています。発表はテーマ毎に4つのセクションに分かれ、全国各地で選抜された計41の研究発表が行われました。

「保安林・林地開発許可制度の運用、森林造成における取組」をテーマとした第4セクションにおいて、福島県代表として森林林業部の遠藤普子技師が「海岸防災林の生育基盤盛土におけるじゃかごを用いた排水工法について」と題して発表しました。

内容は、津波で被害を受けた海岸防災林を平成26年度に盛土して復旧したところですが、時間経過とともに雨水の影響で盛土が崩壊してしまったため、平成30年度にじゃかごを用いた排水処理を施し、その効果と対策案を検討したものです。

じゃかごによる適切な排水がされたことで盛土崩壊の復旧・防止が確認できたこと及び今後必要と思われる対策を具体的に検討したことが評価され、第4セクション優秀賞を受賞しました。(森林林業部)



(優秀賞を受賞した遠藤技師)

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

認証GAP (ギャップ) を取得しませんか？

GAPとは、Good (良い) Agricultural (農業の) Practice (やり方) の略称で、食品安全・環境保全・労働安全を3本柱に、定められた基準に沿った各農場毎のルールを決め、実行・記録・検証する取組みのことです。「認証GAP」は、GAPの取組みを認証機関が審査し、「信頼性の高い生産管理体制のある農場」として認めるものです。

認証GAPを取得することにより、生産している農林産物が安全であることを消費者、流通関係者に保証することができるほか、作業の効率化、農作業の安全性の向上を図ることができます。

また、県では、認証GAP取得者を紹介するホームページ「ふくしま。GAPチャレンジ (https://gap-fukushima.jp/)」の開設や、日本橋ふくしま館 MIDETTE でのGAPフェアの開催などを通じて、認証GAP取得農産物の販路拡大も支援しております。

GAPについて興味のある方は、経営支援課 (☎24-6162) (きのこ類は森林林業部林業課 ☎24-6193)まで、お気軽に問い合わせください。

(農業振興普及部)



(ふくしま。GAPチャレンジのトップページ)

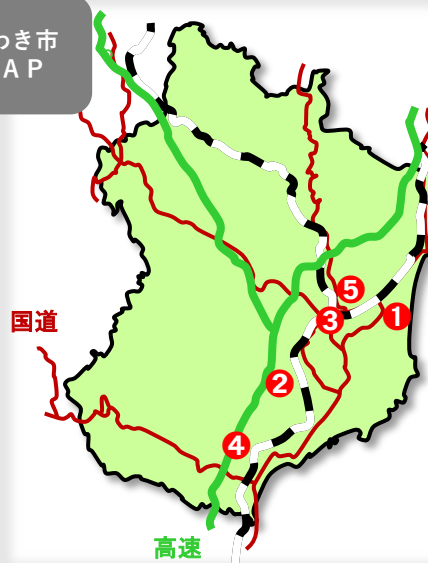
こちらからは非
ご覧ください！



今月号に掲載した場所はここです！

- ① JA 福島さくら夏井支店 (p.5)
平荒田目中田 45
- ② 藤原公民館 (p.6)
常磐藤原町大畑 81
- ③ ヨークベニマル内郷店 (p.9)
内郷御厩町 3-150
- ④ 山田公民館 (p.10)
山田町林崎前 30
- ⑤ いわきオリーブ (株) (p.12)
平権現塚 31-5

いわき市
MAP



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

「いわきオリーブ(株)」は、市内に65か所のオリーブ畑を保有し、オリーブオイルを活用した様々な6次化商品を開発しています。

「燻製めひかりオリーブオイル漬け」は、いわき市の魚「めひかり」とオリーブオイルを活用し、すぐに食べられる加工品を作りたいという思いから、「(有)ニイダヤ水産(四倉町)」と協同して開発されました。同じタイプの商品に「スモークサーモンオリーブオイル漬け」もあります。

また、今年5月から販売を開始した「鰹揚げ浸しオリーブオイル漬」は、いわき市の郷土料理である「鰹の揚げ浸し」をオリーブオイルに漬け込むことで、本来和食である揚げ浸しを見事に洋風にアレンジした逸品です。

各商品とも、サラダ、パスタとの相性はもちろん、お好みの具材と共に炊飯器でバエリヤが作れるなど、様々な活用ができます。

市内では、道の駅よつくら港、いわき・ら・ら・ミュウ、いわき市石炭・化石館ほるなどの観光施設等で取り扱っております。是非ご賞味ください。



燻製めひかり
オリーブオイル漬け

スモークサーモン
オリーブオイル漬け



●販売価格/各 650円(税抜)
●内容量/燻製めひかり:5~6尾
スモークサーモン:約 50g

鰹揚げ浸し
オリーブオイル漬



●販売価格 /500円(税抜)
●内容量 /3切れ



お問い合わせ
いわきオリーブ(株)

・いわき市権現塚 31-5
・TEL.0246-23-3447
・FAX.0246-23-3448

所在地は p.11 のマップを参照



編集後記

改めまして、このたびの台風19号により被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

今月号は速報としていわき管内の被害状況についてお伝えしました。お米や梨、ネギなどいわきの特産物の収穫シーズン真っ只中での今回の台風被害。農作物以外にも農地や林業の分野においても甚大な被害が発生しました。当所では、1日も早い復旧・復興に向けて皆様への支援に取り組んでまいります。

11月に入ると更に冷え込むことが予想されますので、くれぐれも体調管理にお気をつけてお過ごしください！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース